# 地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

| 項　目 | | 取り組みの事実（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ．理念に基づく運営** | | | | |
| １．理念と共有 | | | | |
| 1 | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 入居者の皆さんの尊厳を守る。その人らしく過ごせるよう一人ひとりにあわせて援助する。というこれまでの理念に加えて、地域との関係性を考慮した理念につくりかえた。 | ○ | 今後も求められることや現状に合わせて検討していきたい。 |
| 2 | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 入居者の皆さんと関わりについては、日々のケアに迷ったときも基本的に理念の確認により行っている。 | ○ | 広い地域として捕らえると、認知症ケアの勉強会や介護講演会を実施しているが、自治会範囲での関係性についてはこれから具体的に取り組んでいきたい。 |
| 3 | ○家族や地域への理念の浸透<br>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる | パンフレットに理念を印刷したリーフレットを挟み入れている。玄関やリビングの壁面に理念を掲示している。 | ○ | 地域の方々に気軽に来ていただき、日々のケアを見ていただきながら、感じてもらえるようにしたい。 |
| | | | | |
| 4 | ○隣近所とのつきあい<br>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている | 近所の散歩や通勤の途中での挨拶は心がけている。散歩の途中で野菜をいただいたりもする。そのせで取れた野菜を差し上げたりもしている。駐車場が犬の散歩コースや子どもたちの遊び場になったりしているので自然に話している。 | | |
| 5 | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 自治会に加入して総会に出席したり、秋祭りなどの季節の行事や草刈りなどの地域活動に参加している。 | ○ | 地域に老人会がないが、別の趣味の会（カラオケ）に参加できないか伺っていきたい。近所の子どもたちと一緒に遊べるような機会や気軽にお茶を飲みに来てもらえるようなサロンができたらと思っている。 |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 6 | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる | 介護講演会を開催したり、認知症ケアの勉強会を続けている。 | ○ | 地域の認知症ケアを含む高齢者ケアへのお手伝いがさらにできないか、地域の方々とも話し合っていきたい。 |
| 3．理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | |
| 7 | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 月１回のミーティングでは老人の体について学んだり、研修の復講を取り入れている。個別記録や介護計画の立案にはセンター方式を取り入れ、アセスメント表も改善している。また、申し送りの時間を設け、その日のケアの注意点等の確認をするようにした。 | ○ | さらに改善点がないか、検討を重ねていきたい。 |
| 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 徘徊に対する対応を話し合う中で警察の方にも出席していただき、利用者の安全への配慮、警察への連絡を取る時期等についてもアドバイスをもらい役立てている。 | ○ | 地域の方々が参加されるので、グループホームだけにとらわれず、地域の高齢者の問題を共に考えることもして、地域と共にそのせもサービス向上を図りたい。 |
| 9 | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市町村担当者とは運営や制度の解釈について資料を提供していただいたり、相談にのってもらっている。 | | |
| 10 | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | 実践研修等の復講をしたときに、学習している。利用者の方においては未だ、支援の必要な方はおられない。 | ○ | 利用者のおかれている環境の変化等を加味し、必要に応じ支援していけるよう、全職員が学ぶ機会を持ちたい。 |
| 11 | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 職場内研修として十分といかないが実施しており、利用者への職員のケアには管理者として注意を払っている。スタッフがストレスを抱えたままにならないよう、チームの中で話し合いを持つなど、ストレスの解消を図り防止に努めている。 | ○ | さらに研修の機会をつくり、虐待防止について研修を徹底していきたい。 |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| ４．理念を実践するための体制 | | | | |
| 12 | ○契約に関する説明と納得<br>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 利用者の身体状況の変化（脳梗塞後寝たきり）による退所に際し、家族と一緒に主治医からの説明を聞き、今の利用者にとって、一番いいケアができるところという考え方で、話し合いの上、十分納得され、退所された。 | | |
| 13 | ○運営に関する利用者意見の反映<br>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進委員会に利用者の代表として意見を出してもらっている。思いや意見を上手に表すことができない方については、態度や表情から思いを察するように心がけている。 | | |
| 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 体調不良の報告や相談等はその都度電話で行っているが、毎月ホームでの暮らしぶりや様子など写真や手紙を載せたそのせだよりを発行している。金銭管理は個々の希望にあわせた個々の方法によるので、ご家族の来訪時に報告している。 | | |
| 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族会において施設が抱えている問題等、ありのまま伝え、皆さんに検討していただいたり、ご家族からも要望も含め、意見をいただいている。管理者がご家族個々にも、来訪時にご要望等おたずねする機会を設けている。 | ○ | 施設内に意見箱も設置しているので、直接言いにくいところなど、利用していただけるよう伝えていきたい。 |
| 16 | ○運営に関する職員意見の反映<br>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎月全員参加のミーティングの際には議題自体を職員から提案してもらうようにしている。だんだんと率直に意見を出してくれるようになっています。記録の様式等も意見を集約して作り変えています。 | ○ | 少しずつ記録等の仕方を変更してきているので、個々の職員の不満等ないか、思っていること等も定期的にもっと聴く時間を作りたい。 |
| 17 | ○柔軟な対応に向けた勤務調整<br>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 入居者の状況に合わせて勤務時間を調整している。ターミナルの方がおいでたときは職員配置を多くしていた。事前にわかっている事や利用者の急な要望にもなるべく勤務変更等で対応している。 | ○ | 入居者が段々と重度化しており、状態に合わせた職員配置ということを、職員の確保と共にどう調整していくか考えていきたい。 |
| 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 新しい職員については、便りで紹介すると共にご家族の来訪時に直接挨拶するようにしている。担当職員の交代に際しても便りで紹介する等、また十分な引継ぎをしている。 | | |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| ５．人材の育成と支援 | | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 今年度は特に介護技術の統一と向上を図る目的で利用者の自立に向けた介護技術研修を全職員対象に行った。また、計画作成担当者等は継続的に対外の研修に参加している。さらに、様々な機関から紹介される研修についても、資格取得についても随時紹介し、学びの機会を提供している。 | ○ | 9月に全員参加の介護技術の研修会を活かすように、毎月のミーティング等で引き続き学習していきたい。 |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 介護講演会に他事業所の方々と準備委員会をつくり、交流を図りながら講演会を開催したり、認知症ケアの勉強会を開催している。 | | |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み<br>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 入居者と離れて交代で休憩を取っている。職員同士の人間関係で悩んでいないか把握するよう努めている。疲労がたまらないようなローテーションになるよう努めている。 | | |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み<br>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | 就業規則の改正で一律固定給を改善し、経験や勤務状況から算定する給与へ変わった。 | | |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | |
| １．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 入所を希望され、見学に来られた方にはできるだけ、コミュニケーションをとっている。今年入居された方は3年以上当事業所のデイサービスを利用されていたので、本人とのコミュニケーションは十分取れていた。 | | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係<br>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 電話や来所で入所の相談をされる場合は、十分お話をお聞きしている。今年入所された方のご家族とはデイサービスを数年にわたり利用してくださり、何でも率直に言ってくださる関係がつくれていた。 | | |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 25 | **○初期対応の見極めと支援**<br>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | その方の状況等を一番に考え、そのせでよいのか、その他のサービスが良いのか考えることにしている。 | | |
| 26 | **○馴染みながらのサービス利用**<br>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入院や他の施設に入っておられるのであれば、顔合わせに出向いたり、そのせも本人に見学して、しばらくおやつを食べたりして過ごしていただくようにしている。 | | |
| **２. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援** | | | | |
| 27 | **○本人と共に過ごし支えあう関係**<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 本人が主役であり、職員は媒介、媒体となり、共生していくケアを目指し取り組んでいる。 | | |
| 28 | **○本人を共に支えあう家族との関係**<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 利用者により、家族の支援体制が異なる。そのせから電話や来訪時に報告や相談をしているが、ご家族の方は段々とそのせに任せがちになっている。 | ○ | 家族とも再々お会いすることが大事ではないかと思う。今年から、ミニ家族会を開き、来訪してもらう機会を多くするようにした。 |
| 29 | **○本人と家族のよりよい関係に向けた支援**<br>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 本人が中々家族に伝えられず、心配していることがあれば連絡をとる。遠方の家族からの便りがあれば、返事をかいたり、電話で話す機会をつくったり支援している。 | ○ | そのせの行事等への参加の案内をしたり、気軽に家族会も年に1～2回にこだわらず、ミニ家族会を開き、来訪して本人と会ってもらう機会を多くしていきたい。 |
| 30 | **○馴染みの人や場との関係継続の支援**<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 趣味のお友達やお知り合いの方にも、連絡を取り、来訪していただいている。 | | |
| 31 | **○利用者同士の関係の支援**<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | ほとんど変らない入居者の方々で、共に長く一緒に生活され、お互いがなんとなくわかっておられる。病気のとき自然と心配されたり、耳の遠い方とも話しはできないが、一緒に散歩に行かれたりしている。たまに、気の合わないことを漏らされるときがあるが、話を聞いてストレスを発散してもらうようにしている。 | | |

| | 項　　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み<br><br>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 病状の変化で、入院から退所となった方へ他の入居者とお見舞いに行ったり、家族への心のケアも含め、お付き合いをしている。 | | |
| | １．一人ひとりの把握 | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | センター方式を使い、これまでの生活歴等、家族におたずねするだけでなく、日々の関わりの中で感じ取るよう努力している。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握<br><br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 新たにセンター方式を取り入れ、これまで把握できていない情報の把握に努めている。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握<br><br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 生活や介護記録には気づきやエピソードも含めて記入しており、また、センター方式を取り入れた際には全員のアセスメントも行っている。状態の変化に対応できるように、必要なときにアセスメントしている。 | | |
| | ２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している | ケア担当者や計画作成担当者のアセスメントやモニタリングをもとに、職員全員でカンファレンスを行い、介護計画を作成している。 | ○ | 家族にはケアを提案して、了承していただくということが多いが、現状をよく伝えたり、触れ合う機会を多くすることで、意見等もらえるよう努めていきたい。 |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 期間に応じた見直しのほか、状況の変化に応じて期間終了前であっても、見直し、作成をしている。 | | |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映<br><br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 個別の生活、看護記録には体調の変化、ケアの工夫や結果等、支援経過やモニタリングも新たに加えて記入している。また、フロアに入る前に記録を確認する時間を設け、情報の共有を徹底している。 | | |
| ３．多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br><br>本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人や家族の状況に応じて、通院などの支援にも対応している。デイサービスも併設されているので、時に一緒にゲームしたり、外出したりしている。 | | |
| ４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 園芸や阿波踊り体操、フラダンス、歌や楽器の演奏、わらじつくりなどのボランティアさんの来訪が頻繁にある。消防に来てもらい、救急法、消火・避難訓練したり、警察の方にも必要に応じて運営推進会議に出席してもらっている。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援<br>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 病院からの訪問リハビリ等、本人の希望に応じて病院のリハビリ担当の方と話し合いの上、利用できるよう支援している。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働<br><br>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | そこまでの支援はしていない。 | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 事業所の協力医の場合、往診が受けられる。以前からのかかりつけ医の場合は、家族同行の受診を原則としているが、必要があれば、職員も同行したり、訪問診療に来てもらうこともある。 | | |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援<br>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 精神科の病院への通院は支援している。 | | |
| 45 | ○看護職との協働<br>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 看護資格を有する職員を配置している。夜間の急変には2人の看護師と連絡が取れる体制を取っている | | |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働<br>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 入院の際には頻繁に職員が見舞い、病院や家族と情報交換しながら、受け入れの体制、リハビリの到達目標等を加味しての入院計画を立てていただいている。 | | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居者が重度や終末期に近くなると、病状の変化に応じて主治医、家族等との話し合いを繰り返し、主治医、家族、そのせの対応の方針を共有している。 | | |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援<br>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 終末までの体調の変化時や終末期には変化に対して報告、相談が主治医とできており、あらかじめ状態に応じた対応を指示されており、密に連絡を取り合い対応できたと思う。 | ○ | 利用者の心身の状態に応じ、できること、できないことの見極めも必要になってくると思われる。早いうちにその見極めていく能力を養っていかなくてはと思う。 |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止<br>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 家族、地域のケアマネージャーと連絡をとりながらどう対応していくか等、ケアとその環境について話し合いをもち、本人へのダメージを防ぐことを支援している。 | | |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （〇印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | |
| **１．その人らしい暮らしの支援** | | | | |
| **（１）一人ひとりの尊重** | | | | |
| 50 | **○プライバシーの確保の徹底**<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者の尊厳を守ることを一番大切に考えており、言葉かけの内容や語調に配慮がされているか、管理者が点検し、確認している。 | ○ | 職員間での申し送りや打ち合わせが、フロアで行われる際、プライバシーを損ねないか、気になることがある。また、家族への便りや運営推進会議等でホームの実情を知らせたいと思う反面、プライバシーの保護との兼ね合いが難しいと感じている。 |
| 51 | **○利用者の希望の表出や自己決定の支援**<br>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 着るもの、髪型、好きな歌、TV番組、食の好みなど、それぞれの方の関心、嗜好を知るように努め、それをもとに日々の生活の中で本人が選びやすい場面づくりを心がけている。 | | |
| 52 | **○日々のその人らしい暮らし**<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 体調の変化や天気等に配慮しながら、その日のすごし方等希望を出していただいたり、相談しながら決めている。また、昼寝や食事や就寝時間等もその方のペースに合わせている。 | | |
| **（２）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援** | | | | |
| 53 | **○身だしなみやおしゃれの支援**<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている | 出張美容室に来てもらい、好みに合わせてパーマや毛染め等も楽しんでもらっているが、街の美容院が好きな方には同行している。また、これまでの習慣で洗髪後のカーラー巻き等も支援している。その日の洋服も自分で選べるようできるだけ支援している。 | | |
| 54 | **○食事を楽しむことのできる支援**<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 野菜の皮むきや筋取り、盛り付けやテーブル拭きなどは、日によってそれとなく分担している。お盆を持って配膳できない方も、個人の茶椀や箸を覚えていて手を伸ばして配るという役割をされ、片付けは茶碗を洗える人、茶碗を重ねる人等個人によってできる部分をしていただいている。 | | |
| 55 | **○本人の嗜好の支援**<br>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 特に甘いものが好きな方には、おやつ時以外でも要望があったときには、自室で楽しんでいただくようにしている。 | | |

| | 項　　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 56 | ○気持よい排泄の支援<br><br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 排泄パターンを考慮したり、尿意があっても言えない方にはサインを把握して誘導、排泄行為のどこに迷いがあって失敗するのかを把握して援助している。下着のみ、もしくはパッドの使用等でなるべくおむつを減らし、取れるようにしている。 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | お風呂の声かけして、1番に入るとか、昼から入るとか希望をお聞きしている。お風呂を嫌がる人には、散歩から汗をかいて帰った後等タイミングをみて声かけして納得して入ってもらう。お風呂は温度も時間も好みでゆっくり楽しんでもらっている。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援<br><br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 個人の身体の状況により、昼寝を取り入れたりしている。寝つきが悪い人には、そばで子守唄歌ったり、温かい飲み物を飲みながらおしゃべりに付き合うようにしている。昼夜逆転の人には昼間の活動を促したり、生活リズムを整えるよう努めている。 | | |
| | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 役割や楽しみが、職員の主導で終わらないよう、自発的にされたことや、思いがけなくできていたことへの気付きを記録して、情報を共有して大事にしている。ふっと昔の記憶がよみがえってできるときがある。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援<br><br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 買い物をして支払いされたり、財布を自分でもっているだけで満足されていたり、事務所で預かることで安心される方など、一人ひとりの希望と能力に応じ、支援している。 | | |
| 61 | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 外出や散歩を希望される方には、同行したり職員から誘ったりしている。特に季節のいい時には、車を利用して、花見に行ったり景色を楽しんだりしている。デッキを利用したお茶会もたまに楽しんでいる。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援<br><br>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 外食やお墓参り、法事などにご家族と出かけられることがある。たまに映画やお芝居などお好きな方は他の利用者と職員と出かけている。 | | |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （〇印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 63 | 〇電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 遠くに住んでいる知人からの贈り物をいただいたら電話やはがきでお礼を言う支援をしたり、年賀状を出される人には、はがきの購入をしたり、投函したりの支援をしている。 | | |
| 64 | 〇家族や馴染みの人の訪問支援<br>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | フロアや居室のお好きな方でゆっくりしていただけるように笑顔で出迎え、湯茶を出して歓迎している。 | | |
| （4）安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | 〇身体拘束をしないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束については、ミーティングの中のミニ勉強会の中で取上げたことはある。今のところ、身体拘束の対象となる行為は行っていないこともあり、十分な理解は図れていない。 | 〇 | さらに、身体拘束に対する認識を職員が高めていけるように、学習の機会を持ちたい。 |
| 66 | 〇鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 居室の鍵は中から利用者が自分でかける以外、職員がかけることはない。玄関の鍵は日中はかけていない。よく外出する人がおられるが、玄関にセンサーがあり、チャイムが鳴るようにしてあり、いつでも職員がついていけるように安全面に配慮した。 | 〇 | 暗くなり、職員が少なくなってからも外へ出ようとされる方への対応を模索中。 |
| 67 | 〇利用者の安全確認<br>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 職員のうち一人は入居者が集うリビングと同じ空間にいるように、互いに役割分担しているが、戻ってきた職員も見当たらない方の所在を確認しあうようにしている。夜間は、起きられた音が聞こえ、すぐに対応できる位置に待機している。 | | |
| 68 | 〇注意の必要な物品の保管・管理<br>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 洗剤のストックや薬物、包丁、裁縫道具などは手の届きにくい場所や、戸のある場所に置くようにしているが、食器洗い用の洗剤は蛇口の傍に置いている。異食行為のみられる人には、近くにティッシュを置いたり、菓子の包み紙も除いて出している。 | | |
| 69 | 〇事故防止のための取り組み<br>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 日々のヒヤリハットを記録して、職員の共通認識を図っている。事故が発生したときは、速やかに事故報告書を作り、事故原因の究明と今後の予防対策について検討し、家族への説明と報告を行っている。 | | |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （〇印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 70 | 〇急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている | 年に一度、消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を実施、すべての職員が参加して、習得するようにしている。 | | |
| 71 | 〇災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 年に1～2回入居者と共に避難訓練を行っている。消火器や避難経路の確認を定期的に行うと共に、非常食、飲料水、カセットコンロ等の備品も準備している。自治会では水害時の車の避難場所を知らせてくださっている。 | 〇 | 地域の協力体制については、自治会にお願いしているところである。 |
| 72 | 〇リスク対応に関する家族等との話し合い<br>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている | リスクについてはなるべく率直に家族に話すようにしており、対応策について相談報告するように心がけている。 | | |
| （５）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | |
| 73 | 〇体調変化の早期発見と対応<br>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている | 職員は定期的なバイタルチェックに加え、普段の様子を把握しており、食欲、顔色、活気等の変化に気づいたときは、バイタルチェックを行い、記録や申し送りで情報を共有し、看護師や管理者に報告、必要に応じて主治医へ連絡している。 | | |
| 74 | 〇服薬支援<br>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 全職員が現在服用している薬を、すぐに把握できるように記録したものをフロアに置いている。 | | |
| 75 | 〇便秘の予防と対応<br>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる | 野菜をなるべく多く摂る工夫をしたり、水分を十分取ってもらえるように、好みの飲み物を出したり、ヨーグルト、ゼリー等に形を変えてお出ししている。排便リズムに合わせたトイレ誘導に注意しているが、下剤等使用する場合は個人の体調・体質にあわせている。 | | |
| 76 | 〇口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている | 毎食後、歯磨きや入れ歯の洗浄を一人ひとりの状態に合わせて支援している。 | | |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （〇印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br><br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 職員は一人ひとりの好みや食事量を把握しており、食が進まないときは捕食を工夫している。食事量の減少が続くときは食事内容、量等の記録をし、原因を調べると共に食べていただく工夫をしている。また、体調により、刻みやペースト食、とろみをつけたり変更をしている。献立は事前に管理者（保健師）がバランス等チェックしている。 | | |
| 78 | ○感染症予防<br><br>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等） | 起こり得る感染症についてはマニュアルを作成し、行政からの通知などの情報は周知徹底させ、流行に随時対応している。また、入居者及び家族に同意いただき、職員と共にインフルエンザ予防接種を受けている。定期的に職員の検便検査・健康診査を行っている。 | | |
| 79 | ○食材の管理<br><br>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 調理器具や食器は毎回洗浄後、乾燥機にかけている。まな板の漂白、ごみ入れ、流しの清掃は夜勤帯で行っている。食材は、新鮮で安全なコープ自然派のものを使っており、冷蔵庫等の食材の残りは頻繁に点検している。 | | |
| ２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり<br><br>（１）居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫<br><br>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 門扉や建物周囲にはプランターやベンチを置いたり、玄関に入っても人形や花、観葉植物があったりと親しみやすい雰囲気にしている。 | | |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 台所は音や匂いの生活感が感じられる造りになっている。畳コーナーは洗濯物をたたんだり、アイロンをかけたりする場所であると共に、雛飾りやクリスマスツリーを置いて季節を感じてもらう場所でもある。浴室は個人によっては昼間でも外が見えないようにブラインドを下ろしたり配慮している。散歩の途中で摘んできた草花や庭の花を洗面所、台所などに入居者に生けてもらっている。 | | |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br><br>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 畳コーナーに腰掛けておしゃべりしたり、廊下のソファーがお気に入りの場所だったりする。時にはデッキや入り口近くの椅子や玄関の腰掛がひとりになれる場所になっている。 | | |

| | 項　目 | 取り組みの事実<br>（実施している内容・実施していない内容） | （○印） | 取り組んでいきたい内容<br>（すでに取り組んでいることも含む） |
|---|---|---|---|---|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居の際は、なるべく使い慣れたものを持ってきてくださるようお願いしている。生活の様子をみて、家具の配置や布団の向きなど、本人の好みや習慣や力に合わせて工夫している。 | | |
| 84 | ○換気・空調の配慮<br>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | 起床時と掃除のときは、大きく戸を開けて換気するよう決めている。普段でもトイレと天井の換気扇は回している。空調の吹き出し口と座席の位置との関係で、衣類での調節に気をつけている。乾燥する季節には加湿器も使用している。 | | |
| （２）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 入居者の状態にあわせて、トイレの手すりを低くしたり、トイレの便座の位置を変更したりした。その日の状態に合わせて車椅子だったり、歩行器だったり、介助歩行と、その日の個人の身体の状態に合わせている。 | ○ | 浴室の手すりの位置や場所等改善していきたい。 |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり<br>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | トイレのふたをしたままだったら、その上に排便されてしまったりするので、ふたを常に上げておいたり、ふたを取り外したりしている。 | | |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用<br>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | 花壇に花を植え、畑で野菜を作ったりしてきたが、できていた人が次第に足腰が弱くなり、腰掛を利用しての草取りも難しくなったりで、活動の機会が少なくなっている。室内から続いているウッドデッキで、日向ぼっこしたり、お茶を飲んだりしている。洗濯物を干したり、布団を干す場所にもなっている。 | ○ | デッキの花壇が低く、今まで手入れしていた人も活動が少なくなっているので、花壇全体の高さを高くして、立ったままでできたり、座る椅子を利用して作業ができないか検討している。 |

## Ｖ．サービスの成果に関する項目

| 項　目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|---|---|---|---|
| 88 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | | ①ほぼ全ての利用者の |
| | | ○ | ②利用者の2/3くらいの |
| | | | ③利用者の1/3くらいの |
| | | | ④ほとんど掴んでいない |
| 89 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | | ①毎日ある |
| | | ○ | ②数日に1回程度ある |
| | | | ③たまにある |
| | | | ④ほとんどない |
| 90 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 91 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 92 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 93 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 94 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 95 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている | | ①ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | ②家族の2/3くらいと |
| | | | ③家族の1/3くらいと |
| | | | ④ほとんどできていない |

| 項　目 | | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 |
|---|---|---|---|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | ○ | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | ○ | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、活き活きと働けている | | ①ほぼ全ての職員が |
| | | ○ | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**
**（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）**

一人ひとりを大切に、入居者も職員も入居者のリズムに合わせて、共生していきたいと思っているが、いつの間にか慌しい毎日になっています。
住宅環境は木造で、フロアの天井も高く圧迫感を感じない造りになっており、ゆったりした空間である。周囲の環境も自然に囲まれ、散歩やただ、外を眺めるだけでもほっとします。
食材は安全なコープ自然派の食材を利用している。